

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の視点に立った理念を作成し、目に入り易いところに掲示し、意識している。	地域に密着した生活を送ることを取り入れた、事業所独自の理念が作成されています。日々目に付くよう、各ユニット・職員用トイレ・事務所・休憩室に掲示しているとともに、新入職員研修でも理念を研修する機会を設け、理念の実践に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を届けたり、ゴミステーションを掃除したりして日常的な交流に努めている。地域のお祭りや町内の行事などにも参加している。	事業所広報を地域に回覧したり、地域の方から野菜を頂いたり、お茶を飲みに来ていただいたりしています。また、地域のお祭りに参加したり、小学校の運動会にも見学に行くなど、地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の親睦会に職員が参加し、認知症に関する話題が出た際に、積み上げてきた経験を通して学んだことを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で出た外部の方の意見を職員で共有し、今後のサービスの向上に活かせるよう努めている。	2ヶ月に1回、市の担当者・町内会長・民生委員・ご家族代表・ご利用者へ出席していただき、活動報告やご利用者の状況報告など事業所の状況を伝え、そこから出された意見を職員会議で話し合い、サービスの質の向上に活かす取り組みがされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員のメンバーとして、市役所の職員にも毎回参加してもらい協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、事業所の状況を把握してもらうことに努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない時は、説明してご家族からの同意をいただいているが、拘束しないことを基本としている。	ご家族の要望でやむを得ずベッド柵をご利用されている方もいますが、玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議や新入職員研修時に徹底がなされ、身体拘束を行わないケアが基本とされています。	身体拘束に関する承諾書をご家族より頂いていましたが、身体拘束の内容が記載されていない承諾書もありましたので、確認されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して学んでおり、防止に努めている。	身体拘束同様に職員会議や新入職員研修時に徹底しているほか、職員が虐待防止に関する研修に参加した際は、研修内容を職員同士で検討することによって虐待防止に関する理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んだり、知識を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明を行い、不安や質問等について確認し合いながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の代表者に参加していただき、意見をいただいている。また面会時の会話の際のご意見を今後活かせるように努めている。	運営推進会議やホームの行事の際にご家族からの意見・要望も確認し、サービスに活かせるように努めています。また、面会時のやりとりでご家族から頂いた意見や要望は申し送りノートに記載し、職員間で共有するようにしています。	調査時点で玄関に意見箱が設置されていましたが、記入用紙が置かれていませんでした。また、ご家族との交流の機会が以前に比べ少ないと感じましたので、職員と検討の機会を設けられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務でコミュニケーションを大切にしながら意見を言いやすい職場環境を心掛けている。年に2回個別面談を行ない、運営に反映させている。	毎月のユニット会議も内容を職員に事前に周知し行われています。年に2回の職員との個別面談において意見や要望を確認し、対応するように努めています。	年に2回の個人面談のスケジュールも予定の日程の中で進められるように改善されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行ったり、週に一度の報告会議で代表者と面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で、勤務年数に応じてグループ分けを行い研修の機会を設けたり、外部からの講師を招いての研修の機会を確保している。見返り研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加による他事業所職員との交流や、法人内の研修でも他部署間で意見を交換する機会を作り、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時やケアプランの作成時にご本人から意見や要望をお聞きし、安心して安全な環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時やケアプランの作成時にご家族から意見や要望をお聞きしたことを取り入れ、良い関係を作れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と話し合い、その意見や要望を尊重しつつ、生活全般のニーズから他のサービスの利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみやお膳拭き、野菜の皮むきをしたり、畑の草取りや水やり、収穫を一緒に行ったりしながら、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、電話で連絡をする際に情報交換を行い、そのことを共有して共に支えていくよう努めている。	毎月の請求書と一緒に担当職員よりお手紙をお送りしたり、ホームの広報を作成し、ご家族に事業所の状況をご理解していただけるよう努めています。ご家族にも事業所のありがたい会に参加していただいたり、ご利用者と一緒に自宅への外泊や旅行に出かけるご家族もおり、ご家族にも協力して頂けるよう努めています。	調査時点で事業所広報の送付が計画通りにされていなかった期間もありましたので、定期的に送付されることを期待します。また、毎月職員からお送りしているお手紙の内容についても、職員間で記入内容の検討が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の方がいつでも面会に来て頂けるように心掛けたり、利用者様が過ごしておられた地域にお連れしたり、馴染の人や場所との関係が途切れないよう努めている。	センター方式を採用し生活暦をより把握するようしており、知人の方に面会に来て頂いたり、ご利用者の要望に応じて出身地域にドライブに出かけるご利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の様子を見て、利用者様同士の人間関係を把握し、支え合うような良い関係が築けるよう環境を整え、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、引き続きご家族が行事に参加したり、お茶を飲みに来所して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から、またケアプラン作成時などの機会を通して個々の思いや意向の把握に努めている。	ご利用者やご家族からの意向も面会時等で確認するとともに、日常のケアの中で得た情報はケース記録に記入して職員間で共有することで思いや意向の把握がされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後のご家族の面会時に、ご本人やご家族より伺っている。また利用していた他事業所の職員から情報を提供してもらっている。	これまでの生活の様子を把握するため、ご家族にも協力してもらいセンター方式の書類を記入してもらっています。居室担当の職員ごとに情報を記入し、職員間で共有できるようにしています。	調査時点でセンター方式の書類が作成されていなかったり、見直しがされていない方もいましたので、日々のご利用者とのやりとりのなかで新たに確認された情報についても追加更新されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録に残し、勤務交替時に申し送りをを行い把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向をもとに、関わる職員でカンファレンスを行って、具体的な支援内容を考え介護計画に反映している。その支援内容を毎月モニタリングしている。	毎月行われているユニット会議において各ご利用者のケア等について話し合いをしており、介護計画が作成されています。定められた期間に応じた介護計画の見直しを行うほか、毎月のモニタリングにおいてご利用者の状態をチェックし、変化が生じた場合には随時見直しが行われています。	調査時点で介護計画の見直しが遅れている方もいましたので、定期的に確認する機会を設け、予定に添って見直しが行われることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録に残し、勤務交替時に申し送りをし職員間で情報共有を行いながら、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合によりどうしても受診に同行できない場合には、事業所の職員が同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事の際に地域のボランティアの方にも協力していただいている。町内のお祭り行事にも参加させていただいた。地域の小学校の運動会を見学しに出かけた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には、事業所内でのご利用者の様子をかかりつけの医療機関にお伝えできるように、医療連携表に状態等を記入し支援している。	ご利用者・ご家族が希望する主治医での受診が行われています。基本として受診の同行はご家族となっているため、書面にてご利用者に関する情報伝達が行われています。また、ホームに往診に来ていただいたり、状況に応じて職員が同行し受診支援を行うこともあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師にみてもらい、ご利用者の状態を伝えて指示を受け、定期受診などの際につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合には定期的にお見舞いをしながら状態を把握し、病院関係者と入退院時の状態や対応等について情報交換し、連携を図るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の介護についてご家族に現状を報告し、事業所として行える対応をお伝えしながら話し合いを行っている。訪問看護師とも連携を図りながら支援していきたい。	現在のホームの環境を考え、医療的なケアが必要なければ最後まで支援していきたいと考えており、ご利用開始時にご家族に説明し同意を得ているとともに、職員間でもその方針は共有されています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当のマニュアルを設けている。外部講師に依頼し、法人内で行った普通救命講習を受けている。	法人内でもAEDの使用方法や救急対応シミュレーションについて研修の機会を設けているほか、事業所で起こったヒヤリ・ハットの職員への周知・徹底もされており、緊急時に適切な対応ができるよう努めています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を日中と夜間の想定で2回行い、地域の方にも参加していただいた。	ホームにおいて、年2回の日中や夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、地域の方にも参加して頂き、災害時に協力して頂けるよう努めています。	災害時に適切な対応ができるように、緊急連絡網を使用した訓練も行われることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬を込めた親しみのある接し方、短く丁寧な言葉かけを意識して対応している。	職員は入社時に個人情報に関する同意を行い、ご家族にも広報に掲載するご利用者の写真の同意も得られています。また、職員の接遇についても振り返る機会を持ち、声掛けなど羞恥心に対する配慮も行われています。	ご利用者の写真を広報に掲載する等の同意内容については、書面で同意書を頂けるように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節行事や旬の食材などの写真をパソコンからプリントし、難聴の方や言葉で表現するのが難しい方には視覚で訴え、目で聞くことも支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など、なるべくご本人の気持ちやペースに合わせて、無理強いしないように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族から気持ちを込めて選んでいただいた衣類を「お似合いですよ」「素敵ですね」などの言葉かけを心掛けている。体調や気候に合わせた衣類を選択できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜のヘタ取り、根っこ取り、菜園からの収穫時には大小の選別作業等にぎやかに作業をしながら好みの調理方法をお聞きした。食後のお盆拭きなどの片づけも一緒に行えるよう支援している。	ご利用者にも、野菜の皮むき・盛り付けなどの準備、食事の片付けも協力してもらっています。また、ご利用者の要望に応じて外出に出かけたり、ホームの畑で育てた大葉、キュウリ、ししとう等の収穫もご利用者と一緒に行い、食事が楽しみなものになるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量や、1時間毎の水分量の記録表があり、その日の状態に合わせて必要な方には栄養補助食品等を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、習慣として行っていただいている。必要な方には声掛けで促したり、口腔介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布のパンツだった方が機能低下により、紙パンツや夜間におむつを使用の方もいるが、タイミングをみてトイレを促し、排泄の失敗が少なくなるように支援している。	全てのご利用者に対して水分・排尿・排便のチェックを行ない、時間による画一的な誘導ではなく、しぐさや動きをもとに排泄パターンを把握し、誘導がされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	合同の体操や、個別に歩行の機会を作っている。また献立の工夫や、必要な時には医療機関にも相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は業務の都合で、決まった時間帯の中で入浴していただいている。	入浴時間はご利用者の希望が尊重されています。入浴を嫌がられる場合は、無理強いをすることなく、時間を置いてタイミングを見計らう、さりげない声掛けを行うなど工夫がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には夕食後にそれぞれの方が眠りたいときに寝ていただいている。声の出づらいい方には夜間トイレに行きたいときにはベルを鳴らしていただいたり、寝る前のおやつが習慣になっている方にはお出ししている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に分けられた薬の袋には、その方の名前と薬の名前、薬の効能を記入している。薬の変更があった場合は様子観察をし、記録に残し、申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お膳拭き、テーブル拭き、洗濯ものなど役割を持っていただいている。近所のお散歩、ドライブ、行事などで気分転換していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の職員体制によるが、希望される方の外出支援を行っている。	ご利用者の誕生日には担当職員とドライブに出かけたり、季節に合わせてお花見やぶどう狩り、紅葉見学などのドライブ、日常的な近隣への買い物や散歩などの外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理しておられる方が数名おられる。しかしお金を使えるような支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ボランティアの方の協力で手作りの暑中見舞いを作り、ご家族に送った。また、ご利用者の誕生会に手紙を書いてくださった方もおられる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁にその時の季節の写真を掲示し、室内にいても季節を感じられるような工夫を行っている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がゆったりとテレビを見ながら過ごせるようになっています。また、季節を感じる花やご利用者の習字の作品の掲示などもされており、居心地のよい空間が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いご利用者同志で会話ができるような座席になるよう配慮し、交流が持てるよう椅子の配置を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にご家族の記念写真を飾ったり、自宅に居たときに作った置物などの作品を飾ったりしてご本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の愛用していたラジオや人形などの持込みや写真の掲示など、一人ひとりが居心地良く過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が過ごす空間には障害となるものを置かないように配慮し、移動が安全でスムーズに行えるように工夫している。		